



Title	ダイアログの快樂：オイラのぴょん吉編
Author(s)	尾崎, 大助
Citation	臨床哲学のメチエ. 2004, 13, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71169
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

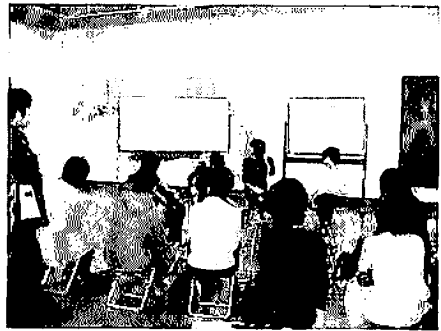
ダイアローグの快楽
～ オイラのひょん吉綱～

尾崎大助

本来ならばこの企画でカフェを運営したおひょん吉の立場から、私は書くべきかもしれません。しかし、私はwriter's blockを通して自分なりのアートとの距離を探りたい、そしてそれを通じて作品との出会いを、企画との出会いを、人との出会いを満喫したいと思っています。ですから、今回出会うことができたダイアローグの感想を以下に書くことで、私からの言葉にかなえたいと思います。

「ここに私じゃない誰かがいればいいのに」ここ最近、作品を目の前にしてしばしばこう思うことが私にはあります。これは私の友人の乏しさのせいではないと思います。なぜなら、十月十六日以来、そう思うようになったからです。きつと、ダイアローグのせいだと私はふんでいます。

一人で作品と向きあうとき、だんだん作品から受ける感じが変化する、つてなことはよくありました。ずーっと作品の前にいると、ほんのちよつとした彩度とか素材の質感に気がついて、作品が少し違って見える。こんな経験です。



がアートから逃れられない訳の一つでした。

作品が変容させられていく快楽。ダイアローグは新しい訳を示唆することで、私をより逃れられなくしたのです。

それは野村さんの作品が、ある瞬間には血の鉄臭さに、ある瞬間には火の熱さに、ある瞬間には戦争の悲惨に、ある瞬間には色そのものに変容させられていく過程です。そしてまた、それは私じゃない誰かの発言のたびに、そのつど私にとつての作品が変容されていく過程です。それは私にとつての作品を、私じゃない誰かの発言の働きかけに委ねる気ままな過程です。そして同時に、そんな気ままな私の発言が、私じやな

作品を
変容させ
ていく快
楽。作品の
前に長い
間たちど
まること
のできる
比較的暇
な人だけ
が味わえ
るであろ
うこのさ
さやかな
快楽が、私

い誰かにとつての野村さんの作品に働きかけているかもしれない不思議な交流です。

一人で作品と向かいあうときに作品が変容していく快楽と、ダイアローグで感じた作品が変容されていく快楽との違いが私には言葉にできません。とくかく違います。壁あてと円になつてみんなでするキャッチボールくらい違います。マスターベーションとセックスくらい違います。私じゃない誰かの投げた球が私の位置に働きの位置に働きかけること。ちよつと意地悪していきなり誰かがけて速い球を投げると相手がいびつくりすること。その相手がおもいつき速い球を投げかえしてくること。その後、してやったりって顔をする。田の中心にフライを投げたら誰かが落下点に一目散に駆け付けると。壁あてでは経験できないことが、円になつてみんなでするキャッチボールすると経験できる。この違い。フェラチオされているときにクンニしようかなと思うこと。クンニしているときに69にもちこもつこと。相手が体をくねらせたのをきつかけに体位がかわること。マスターベーションでは経験できないことが、セックスでは経験できる。この違い。うまくはいえませんが、そんな愉しみをダイアローグの中で感じました。

それにも関わらず、ダイアローグの快楽がましてくるほど、キャッチボールが中断する大暴

投を投げられたいー(投げたいー)場違いなところを愛撫されたいー(愛撫したいー)なんて思う。「オイラのびょん吉」(根性ガエル)が人の胸には一匹くらいはいるものですね。

ダイアローグ中にいくつもあった、ついつい「オイラのびょん吉」を静止できずに飛び出した発言も刺激的で素敵でした。少しおりこうさんすぎた自分の発言に反省しつつ、次のダイアローグは「オイラのびょん吉」の勃起に身をまかせてもいいかと思っています。そんなひろしに思いをはせつつ、感想をおわることにはしようと思います。

おさぎだいすけ (after 5 art 現代美術好き)

小学校の「ガンバリ水泳」(25メートル泳げない子供のために夏休み期間中に行われる授業)で、権力の恐ろしさを身をもって味わったのをきっかけに、現代美術に迷いこむ。ほぐなくしてサオイスギヤラリーに拾われ、after 5 artの運営に携わる。ソクラテスってただのアホなんちゃうんーって思っちゃうびりお祭目な二十二歳(当時)ちなみに、今春から関西学院大学の経済学研究科(マスター)に進学。